

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第39回放送の概要 (2011年9月24日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) JR兵庫駅前の「神戸ルミナスホテル」, 抜群のロケーション、最新の設備と最高のおもてなし、ビジネス、観光の快適な拠点として皆様のお越しをお待ちしております。1階コローレではおいしいコーヒーや紅茶、おいしいランチやお食事なども楽しめます。今日は「神戸ルミナスホテル」様(TEL:078-511-7700)のご協力を頂きました。

1. オープニング

9月22日気象庁の向う3カ月予報では近畿地方は平年並み(40%)か少し高め(40%)、降水量は平年並みか多い。10月太平洋側は曇りや雨の日が多く11月は晴れの日が少なく12月のみ晴れの日が多いという予報が出ている。

2. ゲストコーナー(1): 藤室玲治さん(80陽会)

本日のゲストは神戸大学都市安全研究センター学術推進研究員で学生ボランティア支援室コーディネータの藤室玲治さんです。1974年大阪市北区で生まれ、幼稚園まで大阪で過ごした後神戸市北区西鈴蘭台に住んでいる。北五葉小学校、鈴蘭台中学から兵庫高校、神戸大学国際文化学部、大学院に進み、2008年から学生ボランティア支援室の仕事をしている。兵庫高校では放送委員会の委員長をしていた。放送委員会は生徒会活動の一環と言うことで校内放送や行事の準備を担当していた。当時の放送委員会のメンバーは同学年は3人、一年上は10人程、1年下も10人程であった。「5月の風」というラジオドラマの脚本を書いたが、これはタンポポが風に乗って色々な出会いと別れを繰り返すというファンタジー作品でKBSラジオ京都の「近畿地区奨励賞」をもらった。自分が脚本を書き先輩に出てもらったので思い出深い。元々機械いじりが好きで当時は脚本を書くのが自分しかなかったので仕方なしに書いたものである。タンポポは5月に咲くが男の子と女の子のキャラクターの種のうち男の子の種が大地に早く着くが、女の子の方は冒険心に富んでいてずーっと空を飛んでいたいという設定であった。高校時代は授業を良くさぼり、放送委員会の部屋で脚本を書いたり、コンテストの締め切りに間に合わすよう徹夜で作品を作っていたが、夜間は湊川高校の授業があるため5時以降は部屋の使用が出来ない。機材が放送委員会の部屋にあるためカーテンを閉め切り見つからないようにしていたが、見つけられ使用禁止になった。生徒会室に移り放送室に改造し使っていたがまた見つけられ怒られたがあきれられ元に戻ってよろしいと黙認された。

高校時代は分厚い壁で重苦しい旧校舎で定礎が皇紀で書かれ、1階ホールの床は赤く塗ってあり、戦時中に御遺体が運ばれ床が血を吸ったという伝説が流れていた時代であった。卒業後校舎が取り壊され新校舎になった。出来たばかりの新校舎が震災で渡り廊下が崩れ体育館や教室が避難所になった。大学

2年生の成人式の1月15日に三宮で友達と飲んだりし、休み終わりで大学に行くのは嫌だなと思っていた時に地震があり、自宅は部屋の中がぐちゃぐちゃになったりベランダにひびが入ったりした。市バスが運行していたので長田からバスで鈴蘭台に買い物に来る人がいた。震災の翌日バスで長田に出て友達の安否確認のために兵庫高校に行った。そこは被災者がたくさんいたので入りこめる雰囲気ではなかったので引き上げ、2月の中旬にボランティアとして通い始めた。4月になって大学が始まったので学校に戻り、ボランティアを続けようという学生が何人かいた。その時のリーダーが稲村和美さん（現尼崎市長）で、1学年上の法学部生と一緒に大学内に総合ボランティアセンターを作る活動をした。秋には大学近くの仮設住宅に通い始め、仮設が解消されるまで（2000年頃）お茶会他の活動をした。神戸大学学生救援隊は稲村さんとは別のグループで震災後の23日に出来た。稲村さんは灘区の御影北小学校避難所のリーダーをしていた。救援隊は大学内キャンパスで大学に避難していた人の支援をしていた。また避難所に入りきれないテント生活者の訪問支援をしていた。

震災まではボランティア活動に関心はなかったし参加しようとも思わなかった。震災発生直後は友人の安否確認のため長田を歩いたがその後は大学も休みで何することもなく自宅に引きこもっていたが、通っていた神戸ドライビングスクールで高校同級生に出会い、卒業生が兵庫高校でボランティア活動をしていることを知り、友達が出来たら自分も出来ると思い、1月18日の避難所の雰囲気が強烈で、多くの人と周辺が焼け野原のような状態のため自分には何も出来ないと思っていたが、現役の高校生も活動していることを知り、2月14日より活動を始めた。ボランティアの受け入れ係をしていたが、北海道から一日だけのボランティアを是非やりたいと言う人もいた。東京他全国からボランティアに来ていることにびっくりし、普段ボランティア活動したことのない学生も参加していたのでそのような力を神戸に活かせないかと考え神戸大学総合ボランティアセンターを作った。

3. ミュージック：GReeeeN「キセキ」

先日キャラメルボックスという劇団の坂口理恵さんと知り合いになった。「賢治島探検記」というお芝居を東北応援無料ツアーとして行うが、これは阪神淡路大震災の時最少の設備で路上で出来るお芝居をしたいということで考えられたもので、最少限の装置、照明、音源を持っていくことになる。セロ弾きのゴーシュと銀河鉄道の夜を合わせたようなお芝居で、坂口さん扮する教授が宮沢賢治の解説をしていくなかで歌ったり踊ったりするお芝居です。大阪は10月4、5日にイオン化粧品シアターBRAVAで公演し東北に持っていきたいという思いがある。坂口さんから応援して下さいとのメールをもらっている。



「キセキ」はドラマの主題歌で、世界中で災害や戦争が起こっているのが奇跡が起こればいいなあという思いで選びました。

4. ゲストコーナー(2)：藤室玲治さん(80陽会)

2000年くらいまで神戸の仮設住宅に関わり活動していたが、その頃には阪神淡路大震災に関するボランティア活動をしたいという学生は殆どおらず、より日常的な地域の中で障害者の介助、在日外国人の支援などに興味を持つ学生が増えてきた。藤室さん自身は5年もの仮設住宅の付き合いで疲れてきたのでボランティア活動を一度止めようと思ったのが2000年頃である。親しくしている人が亡くなったり、各地の復興住宅に替っていったりするので、復興住宅まで行って支援することは若い後輩に任せることにし、第一線から引いた。2004年に中越地震が発生し、その年は兵庫県でも台風被害（淡路、豊岡）があったが、TVで避難所の様子が流れると阪神淡路大震災とまったく同じ状況で、阪神からかなり時間がたっているのにひどい状況で後輩の学生を何人か送り込んだ。当時は阪神淡路大震災の教訓については特段触れてこなかったが、中越の様子を見て改めて阪神の経験、記憶、教訓を学生に伝えることが大事であることを認識した。2004年以降神戸市兵庫区にある「被災地NGO協同センター」の村井正清さんを神戸大学に招き震災に関する勉強会を開催した。2007年3月25日に能登半島地震が発生し、学生と一

緒に能登半島に行き、足湯のボランティア活動を始めた。足湯でほっこりすると被災者が怖かったとか仕事の内容や船が壊れ魚が獲れないなどの経験を話してくれるので、学生が被災者と仲良くなればまた被災地に行きたくなくなるという良いサイクルが生まれる。活動が新聞にも取り上げられたのでさらに活動を広げたいとお思っていたところ 2007 年に野上神戸大学長と面談が出来、ボランティアセンターの必要性、学生ボランティアを支援する部署を学内に作ってもらいたい旨の話をした。理解頂き文部科学省の補助金をもらう機会にも恵まれ 2008 年度に「神戸大学学生ボランティア支援室」が出来た。日常のボランティア活動の支援の他、阪神淡路大震災の記憶をきちんと伝えること、その教訓に立ち他の自然災害被災地を支援していくことが大きな柱になっている。学生の意見を聞くと神戸大学の中で阪神淡路大震災のことをきちんと学ぶ機会がない、震災を語れる人は沢山いるが話を聞く機会がない、他の地域から来た学生も当時は神戸が被災地であることを意識している人が多かった。しかし神戸大学に来ると震災のことはあまり触れられない。学内に学生、教職員の慰霊碑があるが知っている人は殆どいない。学生も関心があり、地域に語れる人いるので大学内に震災の記憶を継承するとともに学生ボランティア活動に活かす部署が必要になった。都市安全研究センターは主に理系の先生が多く、医学部、理学部、工学部の他文系的なこと、学生ボランティア活動に関することもやっていくことにしている。

ボランティアコーディネータの仕事は学生向けのボランティア講座を企画し、フィールドに学生を連れて行くこと。たかとり教会ではベトナム支援のこと、長田では在日の方のことで訪問、わだかんさんには震災時の様子を勉強した。このようなボランティア活動、震災、社会的マイノリティのことなどを知ってもらう企画をすること、学内のボランティア活動をしている多くのサークルの支援をすること、東日本大震災などの地震や水害などの災害時の学生のボランティア活動を支援することである。

東日本大震災が発生した時、一刻も早く現地に行く必要があると感じた。発災直後は皆さんが大変困っているのでもっと先に駆けつけるべきと考えたが福島原発の問題があり、学生を派遣することが出来なかった。しかし神戸大学からは被災地 NGO 協働センターと一緒に 3 月 11 日の夜には現地に向けて出発し 12 日には宮城県入りをしていた。その後続々人を送りだしたかったが出来なかった。各大学とも 3 月中は活動を自粛しなさいという呼びかけがあった。支援が遅れたのは福島原発のせいである。毛布がないので凍死した方がおられるがもう少し早く支援できれば助かった方もおられると思う。民間、公的な支援も含め直後に必要な支援の足を引っ張った罪は大きい。神戸大学がボランティア先である岩手県陸前高田市、大槌町を選んだのは、原発の影響で福島に入るのが難しかったこと、被災地 NGO 協働センターが遠野市（内陸にあり柳田邦雄の遠野物語で有名、沿岸部まで車で 1 時間）の「遠野まごころネット」に宿泊拠点を設けていたこと、そこから前線に人を送り出す仕組みが 4 月初めに出来ていたことである。学生は安全に寝泊まりしながら活動することが出来る条件が整っていた。

現地に行く時は大型バスに 20 人程の学生を連れて行った。1 回目はゴールデンウィーク、2 回目は 6 月末、8 月中旬、9 月中旬の計 4 回のバスを出した。阪神淡路大震災の時との違いは阪神では避難所で救援物資や弁当を配っていたが、東日本のようにボランティアがガレキ出し、泥出しをすることはなかった。今回は水害時の対応と同じである。ガレキ出し、泥出しのイメージが強すぎるので被災者に寄り添い話を聴いたりする活動が少なく、学生も肉体労働をイメージしてくるので被災者とコミュニケーションをとることが少ない。神戸大学の学生は避難所や仮設で足湯をしたり、被災地 NGO 協働センターが阪神淡路大震災時に始めた活動であるタオルで「まけないぞう」を学生と被災者が一緒に作り、売上の一部を被災者に還元する活動をしている。被災者とコミュニケーションをとる活動が中心である。被災地 NGO 協働センターでは「まけないぞう」1 体 400 円で販売し 100 円を作られた方に還元している。



まけないぞう

被災地は今も人手が足りない。ガレキの撤去も一時ほど人が集まらず、学生ボランティアの数も減り、人手の必要な作業がたくさん残っている。仮設もようやく自治会が出来始めたところで、仮設でのコミュニティづくりに取り組もうという段階である。このような場所に入るボランティアが圧倒的に不足し

ている。神戸の場合は市街地でボランティアが行きやすく通いやすかった。東北は車がないと行けないし、人口密度もまるで違うしボランティアの数が圧倒的に少ない。より多くの人に関わることが必要です。

足湯をすると話を聞いてもらっただけですごく楽になったとか言われ、ご家族を失った方が非常に多いのでそのような話を学生が聞いて学ぶところが多い。神戸大学のモットーは「真摯」「自由」「協同」であり、真摯に被災者に共感する力を向かい合っただけで足湯をすることで学生が得ていくと思っている。

5. 中ちゃんの「こぼれた話こぼれなかった話」

各学校の持っている校訓は、教育上・訓育上特に必要と思われる建学精神や教育方針などを標語的に成文化し、児童生徒の学校生活・学習生活の指針となるもので、例えば兵庫高校や神戸高校で言えば、校訓（四綱領）「質素・剛健・自重・自治。これを貫くに至誠をもってす」ですね。夢野台高校では、「清く、正しく、優しく、強く」です。

神戸市内には公立と私立高校合わせて50校ある。どのような校訓が多いでしょうか。「親愛」「信愛」「感謝」「優しく」「愛」「慈悲」は20校、「自主」「自律」「自重」「自治」「個性」「自学」は17校、「剛健」「強く」「健全」17校、「協同」「協働」「共栄」は11校、「創造」は10校、「清楚」「優雅」「清く」10校、「立志」「活力」「意欲」10校、「勤勉」「実践」「挑戦」「やる気」は9校、「誠実」8校、「正義」「正しく」6校、「規律」「責任」「礼節」6校、「奉仕」が5校、「質実」「質素」が5校、「堅忍（我慢）」「根性」が4校、「世界」「国際人」が4校などです。

公立校と私学校との違いをみると、公立校の方に多いのが、「勤勉」「実践」「挑戦」「やる気」が89%（8校／9校）、「創造」が80%（8校／10校）、「自主」「自律」「自重」「自治」「個性」「自学」が65%（11校／17校）、「誠実」が63%、「清楚」「優雅」「清く」が60%。私立校の方に多いのは、「奉仕」が100%（5校／5校）、これはやはり宗教系ということもあるでしょう。次いで、「立志」「活力」「意欲」が80%（8校／10校）、「堅忍（我慢）」「根性」が80%（4／5校）、「正義」「正しく」が67%、「規律」「責任」「礼節」が67%、「親愛」「信愛」「感謝」「優しく」「愛」「慈悲」が65%（13校／20校）、となっている。

ユニークな校訓例としては夢野台高校の「清く、正しく、優しく、強く」と同じく御影高校の「清く、明るく、正しく、強く」、それに私学の甲南女子高校も夢野台と同じ「清く、正しく、優しく、強く」ですね。それに愛徳学園高校の「気高く、強く、美しく」もあります。ちなみに、宝塚音楽学校ではみなさんご存知の「清く、正しく、美しく」が有名ですね。やはり女子高や女子高がルーツの学校ですね。また難しい表現では、神戸星城高校の「良志久（らしく）」要するに人間らしくということのようですね。

6. ゆうかり大好きコアラさんの地域瓦版

10月9日（日）、10日（月）須磨離宮公園で月見の宴が開催されます。9日の17時30分からユーカリプタスのコーラスが聴けます。落語、創作ダンス、松村組の和太鼓などもあります。10日もよさこい、一弦琴の演奏、三線の演奏などがあります。14日（金）～16日（日）、11時～18時30分におかんアート展が元町商店街の海文堂書店の2階ギャラリーで開催されます。教室も参加費500円で参加できます。妹尾河童さんの講演会「少年Hで伝えたかったこと」が10月22日、13時30分～15時、県立美術館のミュージアムホールで開催されます。前売券1000円、当日券1300円です。前売券は会下山小学校の市民図書室でも入手可能です。本音で語るあつという間の90分です。

東日本大震災のことなどを含め学生ボランティア支援室は来年4年間の節目を迎えるに当たり総括のシンポジウムが10月22日（土）13時～17時、神戸大学100年記念館で開催されます。「大学における学生ボランティア活動支援—神戸と東北からの展望」として阪神淡路及び東日本大震災の教訓を引き継いでどのように学生ボランティアを支援するかという内容になっています。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com